

H20/04/01~H21/03/31 活動内容

第118回〔08.4.13(日)〕

草刈(新井堰~ラバー井堰間)とその周辺のゴミ拾い、及び新坂花壇の草抜き



第119回〔08.5.4(日)〕

草刈(馬橋下流~森の元井堰間)とその周辺のゴミ拾い、及び五油花壇の草抜き



第120回〔08.5.31(土)〕

須加院公会堂において香呂南小校区子供会へ川とホタルの勉強会を実施、ホタル観賞は突然の雨で中止。



第121回〔08.6.1(日)〕

香呂南小前~香呂南幼稚園よこの間の草刈とその周辺のゴミ拾い、及びしんざか&五油花壇の手入れ



第***回〔08.6.7(土)〕

西脇市中畑町・ホタル愛好会の方々にホタル産卵や育成などの実技を教わり、ホタル祭りと畑谷川を見学。



第122回〔08.6.15(日)〕

朝からむし暑い中、草刈とゴミ拾い、そして花壇の手入れです。JR 播但線付近までが綺麗になりました。下流域だからでしょうか、ゴミが久しぶりに多かった。ポイ捨てなど社会のマナーやルールを守らない人が後を絶ちません。





第123回〔08.6.30(月)〕

香呂南小の生徒達が地元の須加院にある特養・香照苑の慰問をしています。訪問に須加院川の会が世話をする花壇の花を持参するよう企画し今回で三年目三回目。花の摘み方、ブーケの作り方など初めての生徒が殆んど。平日の正午過ぎ、川の会の女性会員たちが多数はせ参じてくれました。前回までの状況は、花が入所者と生徒らの心をつなぎ老人ホームの館の中は花の香りと笑い声で溢っていたようとかで、今日もそのようになればと祈りながら花束を作り生徒らを送り出しました。



第124回〔08.7.6(日)〕

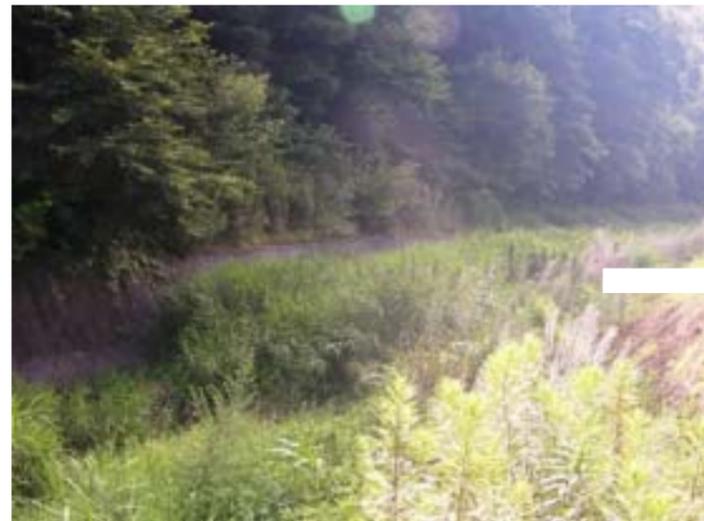
田川神社前～営農倉庫東の身長以上に繁茂する草刈と横枕井堰～小学校間のゴミ拾い、そして雑草抜きなど花壇の手入



上の写真はホタルが乱舞する一帯で産卵や幼虫の孵化が終わった頃を見計らって刈取ります。ちょうど草が伸び盛る時と重なり、草の長さは身丈をゆうに越えます。刈取らなければ絶えないポイ捨てゴミは拾えません。川美化事業の最大の難敵です。

第125回〔08.7.20(日)〕

営農倉庫～鍵の谷口間の草刈と田川神社前～営農倉庫東間の刈取済の草の焼却及びゴミ拾い



第126回〔08.7.27(日)〕

田川神社横～毘沙門天下間の草刈とゴミ拾い、そして前回刈取済草の処理、延焼や山火事には特に注意を払い焼却しました。



第127回〔08.8.17(日)〕

盆明け早々は炎熱の夏日、小学校と幼稚園横周辺一帯が美しく整った。生徒達に休み気分を一新し気持ちよく勉強に取り組んで欲しいと新学期前は学校前に取組ことにしている。香呂南小と幼稚園よこの草刈とゴミ拾いにしんざか&五油花壇の手入れ。



第128回〔08.9.7(日)〕

元なめら井堰～毘沙門井堰間の草刈は約一年ぶり、竹や柴木が繁茂し骨が折れた。ゴミは軽トラに一車ほど拾えた。前週が姫路市一斉美化デー、出役的な形骸化したゴミ拾いのせいなのだろうか、数名ほどで多く拾えたのが何となく複雑な心境だった。



第129回〔08.10.5(日)〕

総会で決めた活動予定はさまざまな理由で計画通りに進まない。集合場所や活動場所の変更が間々起きるが都度連絡をするのですが情報が徹底しない。聞いた人・聞かなかったとか、行ったが誰も居なかったという人もあり会員に迷惑を掛けていました。そんなこんなで、活動予定に齟齬が起きていましたので、雨天を幸いにミーティングに変更した。改めて活動計画や情報伝達方法を決め直し、下期(10月～3月)の対策としました。撮影担当がたまたま欠席で、残念ながら写真記録がありません。須加院川の会では当面は雨天順延もありそうにない。

第130回〔08.10.19(日)〕

11/1(土)姫路グリーンライオンズクラブが香呂南小に生物図鑑一式、及び南小校歌に唱われている「川原なでしこ」300株を贈呈されることになった。学校は種々検討され、「花苗は欲しいが植付や爾後の栽培管理などが心配なのでぜひ川の会に支援してほしい」との要請でこれを諒承、協働する事にした。そのため贈呈イベント会場の河川敷花壇の手入と植付場所確保のための事前作業、さらに当日生徒達が生物調査を予定している川原や周辺の草刈及びゴミ拾い及び、三者の交流バーベキュー食事会の開催場所の整備などを実施した。



第131回〔08.10.31(金)〕

香呂南小学校から須加院川と市川を主軸にした環境授業の要望、今回で三回三年目を数える。3年生と4年生が合同の授業、出前講座の内容は須加院川のゴミ拾いを通じ瀬戸内海的环境保全に励む活動について。パワーポイントをを用い講義した。



第132回〔08.11.1(土)〕

カワラナデシコの花苗を協働植栽、生徒達の川の生き物しらべの後、バーベキュー炊出し食事会で交流を深めました。





第133回〔08.11. 9(日)〕

馬橋～横枕井堰間の草刈、柿の尾の山すその桜、根元まわりの笹や柴の刈取、馬橋～横枕井堰のゴミ拾い及び花壇の手入れ



第134回〔08.11.14 (金)～15(土)〕

環境についての研修と親睦を兼ねた年次恒例の一泊旅行を実施。研修に大塚製薬株式会社板野工場見学と日和佐ウミガメ博物館カレットタを選んだ。特に県や国が明石付近に産卵に来るウミガメの保護に腐心、昨年、鳴き砂館でのウミガメの悲惨な姿等々、外洋に面した海と閉鎖性海域・瀬戸内海を想い、海の環境保全には生活河川美化の重大性の認識を参加者は互いに共有できたようです。



大塚製薬(株)徳島板野工場見学



ウミガメが産卵に来るカレットタ前の美しい浜辺

第135回〔08.12.7(日)〕

香呂南幼～田川神社間の堤防上や山すそ等へ植栽の桜・花木などに施肥を主に平成20年度の最終活動とした。



第136回〔09.1.11(日)〕

前夜の雪で酷寒中の幕開けとなった松の内の活動、竹や笹の刈取と前年に若干手掛けた刈取済竹笹の除去焼却を実施した。



有志が用意していたトン汁を終了後に頂きとても旨かった。今年も怪我や事故など無いように誓い合いました。



第137回〔09.2.1(日)〕

第136回に続き上流の円堂谷口～勝負谷口間に向け、竹や笹・小柴等の刈取と除去焼却活動を進めた。ここは約一年ぶりで刈取る竹や笹は繁茂し身丈の倍を超え、しかも藤のつるも絡み合いいつもながら大変な作業でした。



竹藪一帯の以前は水田で農用水路跡、今は埋もれ使用不能。減反休耕や耕作放棄などがほぼ同時進行し山林へと変化したプロセスが視える。ゴミの不法投棄が絶えない一帯だったが活動後は激減し喜んでる。しかし今でも稀に不法投棄があり口惜しい。



日頃ゴミ拾いや花壇の手入れが主な活動内容の女性の皆さんには、この一帯で活動する時には刈取った笹や竹などを集め除去焼却に携わってもらうのが主な活動になったと思います。お婆ちゃんとお爺ちゃん達には重労働ですが、活動後の景観の良さに疲れも年齢も忘れ去るほどです。この様なことにも汗することが須加院川を美しくし、ひいては瀬戸内海へ流入するゴミの減量化にも寄与していると信じて励んでいます。



第138回[09.2.15(日)]

河川敷の花壇(しんざか・ごゆ花壇)の土が造作時以降の雑草抜などで徐々に減りましたので、補充の土が兵庫県より腐葉土や花の土などが助成されました。搬入や投入の花壇の手入を主に、周辺の道路や川床のゴミくを收拾しました。



第139回〔'09.3.1(日)〕

2月1日137回の続きです。勝負谷口の200mほど下流部～谷山集落の入口間の竹笹・小柴・草等の刈取と除去焼却活動。約一年ぶりで、刈取る竹笹は身長をはるかに超え繁茂しているため大変な作業でした。午後から総会、午前11時に終了です。



第140回〔'09.3.1(日)〕 2009年度総会

2009年度の総会を午後一時半から「いきがいセンター」で開催。会則に、定足数を出席者数と定めています。これは、最高議決機関としての総会、強制や義務に促されて出席した人の議決では実践段階で出席に支障が予想され議決が活動に反映され難くなるという苦い経験が反映してのものです。空理空論の総会に陥るのを避けるため委任状も不要とし、すべて自主自律の総会にしようと意見の一致をみての会則です。「いい加減な集団」と非難する人がいるかも知れませんが、川の会では自主自律・有言実行を旨としていますので全く不具合はありません。写真左は活動現場での会計報告の部です。右は午後、会場において開催中の総会。



第141回〔'09.3.15(日)〕

宮農倉庫～森の元堰間、左岸の草や笹の刈取と、円堂谷口～谷山集落口間の刈取済の笹竹等を山側から手前へ移し焼却。



生活の場の川や溝に捨てられたゴミをコツコツと拾い続け8年目。自らは美しい景観を希求し、社会には自然の美への憧憬心を駆り立てさせたいとの願いを一義に、ゴミゼロ・ポイ捨てしない・ポイ捨てさせないこと等、産官学民の各役割までも言及しながらも、“まずは我がの故郷は我がらの手で美しく！”を基軸に、今日もコツコツと励み続けています。豊かで美しい瀬戸内海を目指し“さと海としての再生”を環境省や兵庫県が呼掛けています。実現の為には多頻度の川のゴミ拾いを最優先すべきと考えています。このことは既に着手実践されていると思ひ勝ちですが誤解です。頻度が少な過ぎ、現場の実態は形ばかりに変質してしまい逆効果の状況、いわくジェスチャー。少なくとも毎月一回以上の活動回数が望まれ見直すべきです。生活の場を流れる小さな川や溝の清掃が、海域内の全河川で着手されれば、確実に美しい瀬戸内海が実現するでしょう。